

# 学習指導案集

学級	教科・単元名
1年1組	学級活動 『あいさつ名人になろう』
1年2組	生活 『あきとあそぼう』
2年1組	国語 『おしごとレポーターになろう』
2年2組	音楽 『リズムをつくって楽しもう』
3年1組	理科 『太陽とかけを調べよう』
3年2組	図工 『コマ撮りアニメーションをつくろう』
4年1組	国語 『中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう』
4年2組	外国語活動 『 This is my favorite place. 』
5年1組	算数 『比べ方を考えよう(1)』
5年2組	総合的な学習 『プログラミングでドローンを飛ばそう』
6年1組	算数 『比例の関係をくわしく調べよう』
6年2組	社会 『江戸幕府と政治の安定』
ことば	タブレットを使った『ひらがな音読支援』 展示発表

## 学級活動（２）指導案

### 研究主題

### 「ICTの活用を通して、 すすんで学び合う児童の育成」

日時 令和4年 11月2日（水）  
第5校時 14：00～14：45  
対象 第1学年1組 21名

1 題材名 「あいさつ名人になろう」  
学級活動（２） ア 基本的な生活習慣の形成

### 2 目標

「気持ちのよいあいさつ」について考え、あいさつを交わす心地よさを味わい、すすんであいさつしようとする態度を養う。

### 3 評価規準

（ア）よりよい生活を築くための 知識・技能	（イ）集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	（ウ）主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
○自己の身の回りの諸課題の改善に向けて取り組む意義を理解し、基本的な生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	○自己の身の回りの諸課題を知り、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を、意思決定して実践している。	○自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、すすんで課題解決に取り組み、他者と仲よくして、よりよい人間関係を形成しようとしている。

### 4 児童の実態と、ICT活用の具体的な手立て

#### （ア）児童の実態

本学級の児童は、素直で明るく活発で協力的である。毎朝の健康観察では、元気な声で返事ができる一方で、あいさつは、すすんであいさつする児童や自分から元気にあいさつする児童は少なく、基本的な生活習慣として身に付けてほしいと思っている。しかし、事前アンケートの、「自分からあいさつしていますか」等の質問には、ほとんどの児童が「はい」と回答しており、児童の実態とずれを感じる。

本題材では、「自分からあいさつ」「上向きの声であいさつ」「相手の目を見てあいさつ」の3つのポイントに絞って、「気持ちのよいあいさつ」について考える。事前アンケートやビデオから課題に気付かせ、原因を見つけて、気持ちのよいあいさつの仕方を考え、自分に合った目標を意思決定できるようにしたい。

#### （イ）ICT活用の具体的な手立て

教師用タブレットを使って、「教室に入ってきたとき」「廊下で先生とすれ違ったとき」の普段の様子をビデオ撮影しておく。普段のあいさつの様子を撮影した動画を観ることで、自分たちのアンケート結果とのずれを感じられるようにする。動画を流す前に、見てほしいポイントを伝えるようにし、あいさつに注目するように促す。

あいさつのロールプレイをタブレットで動画撮影して、ミライシードのオクリンクで全体に共有し、友達の動画を確認することで、気持ちの良いあいさつについて考えられるようにする。

5 本時の展開 (1 / 1)

(1) 本時のねらい

「気持ちのよいあいさつ」とは、どんなあいさつかを考え、あいさつの仕方を身に付けて、すすんであいさつができるようにする。

(2) 本時の展開

時間	学習内容 (学習活動) T: 教師の発問 C: 予想される児童の反応	指導の工夫 <b>★観点</b> ICTの活用・工夫 等 ○指導上の留意点 ◎評価規準 (観点)
導入  ふりかえろう	<p>1 事前アンケートの結果を見て、自分たちのあいさつについて振り返る。 T: この前に行ったあいさつアンケートの結果を見てみましょう。 C: みんなできていると思います。 C: 自分からはできていないときがあるかもしれません。</p> <p>2 普段のあいさつの様子を撮影したビデオを流し、クラスの実態をつかむ。</p> <p>3 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <b>めあて</b> あいさつめいじんになろう         </div>	<p><b>★教材・課題把握</b> アンケート結果を表にまとめて提示することで、現状を把握しやすくする。 ○どのアンケート結果も「はい」と回答した人数が多いことに気付けるようにする。</p> <p><b>★教材・課題把握</b> 普段のあいさつの様子を見ることにより、自分たちのアンケート結果とのずれを感じることができるようになる。 ○動画を見せる前に、見てほしいポイントを伝える。</p>
展開1  しりたいたい	<p>4 自分のあいさつについて改めて振り返りを行い、あいさつができていない原因について考える。 C: はずかしいからです。 C: マスクをしているからです。 C: いつすればいいか、わからなくなります。</p>	<p>○「誰に」「どのような」あいさつをしているか振り返ることで、自分が苦手としているポイントや、あいさつができていない原因について考えさせる。</p>
展開2  見つけたいたい	<p>5 あいさつのロールプレイを通して、気持ちのよいあいさつについて考える。 C: 大きい声がいいと思います。 C: 相手の目を見ると、伝わる気がします。 C: 自分からあいさつできるとかっこいいです。</p>	<p><b>★協働・協議</b> 自分のあいさつを動画で撮影し、全体で共有することで、友達の動画も確認できるようにする。 ○あいさつを体感することによって、気持ちのよいあいさつのポイントを見つけられるようにする。 ◎気持ちのよいあいさつの仕方を理解している。(ア)</p>
終末  やってみよう	<p>6 あいさつ名人になるために、自分の課題に沿った目標を決める。決めた目標をオクリンクで共有する。 C: 1日10人に自分からあいさつします。 C: 相手の目を見て、5人にあいさつします。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <b>まとめ</b> 自分の目標を決めることができた。         </div>	<p>○話し合った内容を参考にしながら、目標を決められるようにする。 ○目標を立てることが難しい児童には、個別で声かけを行う。 ◎自分に合った目標を意思決定している。(イ)</p> <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;"> <b>がんばろう!</b> </div>

研究主題

「ICTの活用を通して、  
すすんで学び合う児童の育成」

日時 令和4年 11月2日(水)  
第5校時 14:00~14:45  
対象 第1学年2組 19名

1 単元名 「あきとあそぼう」(大日本図書)

2 単元の目標

公園や校庭で集めてきた落ち葉や木の実、草花などを使って、いろいろなものを工夫して作り、どうしたらうまくつくることができるか、友達と教え合う。

3 単元の評価規準

(ア) 知識・技能	(イ) 思考・判断・表現	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
①色や形、大きさなどの違う木の実や木の葉があることに気付いている。(発言・記録)	①安全に気をつけて作ったり後片付けの仕方を工夫したりしている。(行動)	①思いや願いをもって、遊びや遊びに使う物を、粘り強く創ろうとしている。(行動・発言)
②安全な道具の使い方が分かっている。(行動)	②秋の自然を使って、工夫して作品を作ったり、遊んだりしている。	②創り出した秋の自然物を使った遊びを、友達と楽しもうとしている。(行動・つぶやき)

4 児童の実態と、ICT活用の具体的な手立て

(ア) 児童の実態

人数は少ないが、新しい事へのチャレンジ精神が強い学級で、物事の切り替えが早く、自分の思いや考えを持ってきている子も多い。他者の考えを受け入れる柔軟さがあり、比較的穏やかな雰囲気もある。

今年度も6月からタブレットの使用を開始した。開始時は、平仮名の学習途中だったので、画面をプロジェクターで映しながら、視覚を頼りに活用方法を覚えていった。家庭では、自分の機器を持っている子は少ないが、何らかの機器を使用している経験があり、タブレットの扱い方を覚えると、自分からいろいろ試し始めた。お絵かきアプリや写真を撮ることはすぐに慣れ、楽しさや便利さを実感していたので、扱いに慣れた操作から授業に取り入れると、意欲的に取り組み、困っている子がいると手助けしたり、使い方を教えたりするなど、児童同士で技能を高め合い、ツールとして活用できるようになってきた。

2学期になり、文字の習得はある程度できているが、キーボード入力はまだ難しいので、タブレットペンを使って、手書きで記入している。今回の学習では、自分で考えた事が、ICTを活用すると簡単に実現するという便利さを実感し、更に興味を深めて、他者に伝える方法のバリエーションを増やしていきたい。

(イ) ICT活用の具体的な手立て

★教材・課題把握・・・本時の教材「紹介するおもちゃの題名」をオクリンクで配付し、視覚的に意識付けることで、本時の課題を理解し、意欲的に授業に参加できるようにする。

★思考の整理・・・ミライシードのオクリンクを活用することで、簡単にカードを増減したり、順番を変えたり、直接文字を書き加えることができるようにする。

★協働・協議・・・個人のタブレットを活用する場面と、チームで一台だけ使う場面など、自己決定や集団検討場面で使い分けられるようにする。

5 本時の展開 (11/14)

(1) 本時のねらい

おもちゃの作り方を、他者が分かりやすいように工夫して紹介する。

(2) 本時の展開

時間	学習内容 (学習活動) T: 教師の発問 C: 予想される児童の反応	指導の工夫 <b>★観点</b> ICTの活用・工夫 等 ○指導上の留意点 ◎評価規準 (観点)
導入	<b>めあて</b> おもちゃの つくりかたを おしえよう!	
おもしろそう	<p>1 いろいろなおもちゃの題名を見て、本時の学習のめあてを知る。</p> <p>T: オクリンクでおもちゃの題名を送ります。自分たちが作るおもちゃの題名を選んで、おもちゃの作り方を紹介してください。</p> <p>C: どんな工夫をしようかな。</p>	<p>○事前に紹介したいおもちゃを選び、計画案をワークシートに記入させ準備しておく。</p> <p><b>★教材・課題把握</b></p> <p>オクリンクを活用し、おもちゃの題名を配付して、紹介するおもちゃを確認させる。</p>
展開1  やってみたい	<p>2 作り方の手順を見て、説明の仕方を確認する。</p> <p>T: 友達と協力して説明書が作れそうですか。</p> <p>C: 簡単に作れそうです。</p> <p>T: 選んだおもちゃをどうやって作るか、みんなに教えてあげましょう。計画書を確認しながらチームで相談し、オクリンクで写真や説明を入れてみなどで、より分かりやすくしましょう。できあがったら、先生に提出してください。</p> <p>3 チームごとに、どんな画像を選ぶか相談し、工程が分かりやすくなるように工夫する。</p> <p>4 他のチームの説明を見て、どんな工夫が分かりやすいかを確認し、修正する。</p>	<p>○計画案による手順紹介の枠を黒板に掲示し、書いてある内容を確認する。</p> <p><b>★思考の整理</b></p> <p>オクリンクで、工程を分けて考えられるように、題字を入れた用紙を児童に送る。</p> <p><b>★協働・協議</b></p> <p>チームで1台のタブレットを使用することで、協力して活動させる。</p> <p>○チームの人数を2~3人に絞って、意見を交流しやすくする。また、一人一人に役割をもたせる。</p>
展開2  もっとやりたい	<p>5 画像の説明だけでおもちゃが作れるか、自分たちで実践し、改善点を工夫して、推敲しながら分かりやすいものにしていく。</p> <p>6 完成したものを、オクリンクでボックスに送る。</p> <p style="text-align: center;"><b>できた!</b></p> <p style="text-align: center;"><b>まとめ</b> *ともだちときょうりょくして、わかりやすいせつめいしよができた。</p>	<p>◎友達と一緒に楽しむために、おもちゃの作り方を紹介しようと工夫している。(ウー②)</p> <p>○実際に画面の説明で工作し、分かりやすいかを確認する。</p>
終末	<p>7 次回の工作タイムで、自分は何を作りたいか考えて、材料を確認する。</p> <p>8 みんなで協力して片付けをする。</p>	<p>○個人のタブレットを使用し、画像を見て自分の作りたい物を選ばせる。</p> <p>◎後片付けの仕方を工夫し、素早く綺麗に片付けている。(イー①)</p>

研究主題

日時 令和4年 11月2日(水)  
 第5校時 14:00~14:45  
 対象 第2学年1組 27名

「ICTの活用を通して、  
 すずんで学び合う児童の育成」

1 単元名 「おしごとレポーターになろう」(光村図書)  
 学習材 「どうぶつ園のじゅうい」

2 単元の目標

- 文章の内容と自分の経験を結び付けて、感想をもつことができる。
- 共通、相違、事柄の順序など、情報と情報との関係について理解することができる。
- 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。

3 単元の評価規準

(ア) 知識・技能	(イ) 思考・判断・表現	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
①共通、相違、時間の順序など、情報と情報との関係について理解している。	①「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 ②「読むこと」において、文章の内容と自分の経験を結び付けて、感想をもっている。	①すずんで文章と経験とを結び付けて感想をもち、学習の見通しをもって考えたことを話そうとしている。

4 児童の実態と、ICT活用の具体的な手立て

(ア) 児童の実態

明るく何でも意欲的に取り組む子供たちであるが、自分が言いたい、やりたいという気持ちが強く、友達と自分の考えを比べて聞くことに苦手な児童もいる。読むことでは、説明的教材より文学的教材を好む児童が多く、読書量には大きな差がある。書くことでは、何を書いたらよいのかが分からず、自分の気持ちや考えを書くことに苦手意識をもっている児童もいるが、週末の日記を続けたことで、書く量は増えてきた。

本単元では、説明的な文章を読んで自分の考えをもち、交流する活動を行う。時間的な順序や事柄の順序を考えながら内容の大体を読み取り、自分の知識や生活経験と比べながらまとめた感想を、「レポーター」という形をとって、発表し合う能力を育てていきたい。

(イ) ICT活用の具体的な手立て

本単元では、ミライシードのオクリンクを使用し、自分の書いたワークシートを写真に撮って、提出boxに送信する。個々のタブレットで、友達の考えをヒントにして書き進めたり、より考えを深めたりすることができるようにする。

また、前時までの児童のワークシートを掲示して、良いレポートの部分を具体的に視覚で確認させたり、動物の様子を拡大掲示して、学習の手助けにしたりするなど、説明文の理解を助けるツールとして活用する。

5 本時の展開 (6/12)

(1) 本時のねらい

ワラビーの診察をする獣医さんの仕事やそのわけ、気持ちを読み取ることができる。

(2) 本時の展開

時間	学習内容 (学習活動) T: 教師の発問 C: 予想される児童の反応	指導の工夫 <b>★観点</b> ICTの活用・工夫 等 ○指導上の留意点 ◎評価規準 (観点)
導入	<p>1 にほんざるの治療について、確認する。</p> <p>T: にほんざるの治療は、どのようにおこないましたか。 C: ハナナにくすりをはさんだけど、よけてしまいました。 C: くすりをはちみつにまぜてのませました。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>めあて レポーターになって、じゅういさんのしごとをしようかいしよう</p> </div> <p>T: 「いつ」「どんなしごと」「なぜ」に気をつけて、今日学習する獣医さんの仕事はどんなことなのか、紹介しましょう。</p>	<p><b>★学習の振り返り・見通し</b> 前時に学習した児童のプリントを画面に表示し、良いところを見つけて、学習の見通しをもたせる。</p> <p><b>★教材・課題把握</b> ワラビーについて、カンガルーと似ている所、違う所を、拡大した写真で提示して比べさせる。 ○ワラビーの大きさなどを確認する。</p>
展開 1	<p>2 本時の学習範囲を見通しをもって音読する。</p> <p>① デジタル教科書で判読。② 児童の音読。</p> <p>3 タブレットで読み取ったことを選択する。</p> <p>4 グループで獣医さんの仕事のわけと工夫を学習する</p> <p>(1) 2人か3人組になって、修正・付け足しをする。 C: &lt;獣医&gt;・三人でやって、とてもたいへんでした。 C: &lt;ワラビー&gt;・ちりょうは、とってもいたかったな。 C: &lt;レポーター&gt;・このように、じゅういさんは、はぐきかはれてしまったワラビーを、3人がかりでちりょうしているのですね。とてもたいへんそうですね。</p> <p>(2) グループでレポーター、獣医、ワラビーになって読み合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;"> <p>まとめ ワラビーのちりょうについて しようかいすることができた！</p> </div> <div style="text-align: center; font-weight: bold; font-size: 1.2em;">できた！</div> </div>	<p>○学習範囲を音読することで、学習内容を確認したり大まかに掴ませたりする。</p> <p><b>★思考の整理</b> 修正・付け足しをしたワークシートの写真を撮り、オクリンクで共有することで、友達の考えをヒントにして書き進めたり、考えをより深めたりできるようにする。 ○早く書き終わった児童は、友達のワークシートを読んで、良い所を見付けさせる。 ○ワークシートを画面に提示し、書き込んだ部分を全体で確認する。 ○ワークシートに自分で考えたセリフを書き込ませる。 ◎ワラビーの診察をする様子を読み取り、自分の経験と結び付けて、感想を書いている。 (イー②)</p>
展開 2	<p>5 全体で発表する。</p> <p>T: 素敵なレポーターのいたグループに、前に出て発表してもらいます。内容の良いところを見つけながら聞きましょう。 C: ワラビーの治療についてよく分かりました。 C: ワラビーの痛い気持ちが伝わってきました。</p>	<p>○いくつかのグループに発表をしてもらう。 ○自分の考えと比べたり、内容の良いところを見付けたりしながら、聞くように助言する。</p>
終末	<p>6 本時の振り返りをする。</p> <p>T: 頑張りカードに記入しましょう。</p>	

日時 令和4年 11月2日(水)  
 第5校時 14:00~14:45  
 対象 第2学年2組 26名

## 研究主題

# 「ICTの活用を通して、 すずんで学び合う児童の育成」

1 単元名 「リズムをつくって楽しもう」

## 2 単元の目標

- ・ミュージックラボを活用して、リズム伴奏をつくることができる。
- ・作ったリズム伴奏を友達と共有し、互いの良さを見つけたり認め合ったりすることができる。

## 3 単元の評価規準

(ア) 知識・技能	(イ) 思考・判断・表現	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
①曲想と拍子やリズムとの関わりに気づき、ICTを活用して、リズム伴奏を作って演奏している。	①「かえるのがっしょう」の旋律を意識しながら、どんな工夫をしてリズム伴奏を作るか、思いをもっている。	①ICTを活用したリズム伴奏作りに興味・関心をもち、自分でリズムを工夫したり、友達の作品の良さを見付けたり、学習に楽しんで取り組もうとしている。

## 4 児童の実態と、ICT活用の具体的な手立て

### (ア) 児童の実態

2年2組の児童は、歌唱や器楽等の技能面での個人差が大きく、そのため、普通の音楽の学習に取り組む意欲も個人差が大きい。

ほとんどの児童が前向きに音楽の表現を楽しんでいるが、苦手意識がある児童は、指導者が促せば素直に学習活動に取り組めるが、自らすすんで練習をしたり、自分の考えを表現したりすることは少ない。しかし、ICTを活用した授業では、大きな差はみられなかった。音楽の得意・不得意に関係なく、どの児童も自信をもって、前向きに活動に参加することができている。

ICTを活用することで、思い通りの音を表現することができるという良さを活かして、今後の音楽活動に対する関心や意欲を引き出していきたい。

### (イ) ICT活用の具体的な手立て

タブレット機器の操作能力に個人差があるが、ICT活用全体では意欲の差が比較的少なく、「ミュージックラボ」を活用する場面では、全員が意欲的に取り組んでいる。

そこで本単元では、「ミュージックラボ」を活用することによって、児童全員がすすんで音楽活動に取り組み、より楽しめる児童を育てたい。



5 本時の展開（2／3）

（1）本時のねらい

リズム伴奏作りに興味・関心をもち、自分でリズムを工夫したり、友達の作品の良さを見付けたりできる。

（2）本時の展開

時間	学習内容（学習活動） T：教師の発問 C：予想される児童の反応	指導の工夫 <b>★観点</b> ICTの活用・工夫 等 ○指導上の留意点 ◎評価規準（観点）
導入 おもしろそう	1 ミュージックラボで、音楽あそびをする。 C：たのしそうです。はやくやってみたいです。 <b>めあて</b> リズムばんそうをくふうして楽しもう	<b>★教材・課題把握</b> ミュージックラボを使って、関心を高めながら本時の学習に取り組めるようにする。 ○操作が難しい児童には支援をする。
展開1 やってみたい	2 前時に自分が作ったリズム伴奏を確かめる。 T：どんな伴奏を作っていましたか。 3 友達の作品を全員で聞いてみる。 T：他の人の作品のおもしろいところをみつけてみましょう。 4 自分の作品にさらに手を加えて完成させる。 C：もっと工夫してみたいです。 <b>まとめ</b> 自分のリズムばんそうができた。	<b>★思考の整理</b> 前時に保存した自分の作品に繰り返し取り組ませて、よりよい伴奏を目指させる。 ○あらかじめ作品を選んでおき、モニター画面を見せながら、工夫のポイントをアドバイスする。 ○手直した作品は保存させる。保存操作が困難な児童には、個別支援する。 ◎ICT を活用して、リズム伴奏作りに興味・関心をもち、自分でリズムを工夫したり友達の作品の良さを見付けたりする学習に、楽しんで取り組もうとしている。（ウ）
展開2 もっとやりたい	5 完成した作品を、ペアやグループで互いに見合う。 T：自分の作品を見てもらいましょう。他の人の作品の良いところも見つけましょう。 6 いくつかの作品を全員で共有する。 T：こんなにおもしろい伴奏もありますね。	○ペアやグループで見合う時は、タブレット画面を互いに直接見合わせるようにする。さらに、他の児童の作品を見るときは、自分の画面で、「まなびポケット」から保存された作品を選んで見るようにする。 ○推薦された作品や教師が選んだ作品を、TVモニター画面に映して全員で共有させる。
終末	7 今日のめあてについて振り返る。 T：次の時間は、速さやリズム楽器の音色を工夫してみましよう。 C：次の時間がとても楽しみです。	○本時の学習を振り返らせて、次時への意欲をもたせる。

## 研究主題

「ICTの活用を通して、  
すすんで学び合う児童の育成」

日 時 令和4年 11月2日(水)  
第5校時 14:00~14:45  
対 象 第3学年1組 25名

1 単元名 「太陽とかげを調べよう」(東京書籍)

## 2 単元の目標

日陰や影の位置に着目し、それらを比較しながら、太陽と日陰や影の位置を調べる活動を通して理解を深め、観察などに関する技能を身に付けるとともに、主に差異点や共通点を基に問題を見いだす力や、主体的に問題解決しようとする態度を育成する。

## 3 単元の評価規準

(ア) 知識・技能	(イ) 思考・判断・表現	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
①太陽と日陰や影の位置について、器具や機器などを正しく扱いながら調べている。	①太陽と日陰や影の位置について、差異点や共通点を基に問題を見いだしている。	①太陽と日陰や影の位置についての事物・現象にすすんで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとしている。
②得られた結果を分かりやすく記録している。	②太陽と日陰や影の位置について観察などを行い、得られた結果を基に考察して、表現しながら問題解決している。	②太陽と日陰や影の位置について、学んだことを学習や生活に生かそうとしている。
③日陰は、太陽の光を遮るとで、日陰の位置は、太陽の位置の変化によって変わることを理解している。		

## 4 児童の実態と、ICT活用の具体的な手立て

## (ア) 児童の実態

多くの児童が前向きに学習に取り組み、隣同士で話し合いをしたり、課題を終えた児童が終わっていない児童に教えたりしている。「隣同士で話し合うことができるか」のアンケートでは、26人中20人が肯定的に回答し、「学級全体で話し合うことができる」では、26人中18人が肯定的に回答した。

本時では、提示された動画や写真から問題を見だし、児童が前時に撮影した写真を根拠に、仮説を伝え合う活動を展開していく。少人数での話し合いから、学級全体での話し合いにつなげていきたい。

## (イ) ICT活用の具体的な手立て

本時では、タイムラプスカメラで撮影した動画や写真を、「教材・課題把握」の場面で扱い、問題を設定していく。教科書では、「影遊び」の経験を基に問題を設定しているが、動画や写真を意図的に提示することで、児童が問題を設定しやすくする。また、設定した問題に対する仮説を立てやすくしたり、立てた仮説を友達に伝えやすくしたりするために、1人1台のタブレットで撮影した写真を活用していく。「協働・協議」の場面では、児童がオクリンクで提出した写真の中から、2~4枚程度選択し、全体で共有しながら、「主体的・対話的で深い学び」につながるよう、授業者が意図的な発問を工夫していく。

5 本時の展開 (2/7)

(1) 本時のねらい

太陽と日陰の位置について、差異点や共通点を基に問題を見いだす。

(2) 本時の展開

時間	学習内容 (学習活動) T: 教師の発問 C: 予想される児童の反応	指導の工夫 <b>★観点</b> ICTの活用・工夫 等 ○指導上の留意点 ◎評価規準 (観点)
導入	<p>1、前時までの活動を振り返り、めあてを確認する。</p> <p>T: 前時までに、影について気付いたことや考えたことを友達と話しましょう。</p> <p>C: 曇りや雨の日は、影ができませんでした。</p> <p>C: 影は、自分たちの動きに合わせて動いていました。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>めあて</b></p> <p>影のでき方について問題をつくろう。</p> </div>	<p><b>★学習の振り返り・見通し</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の「影遊び」の活動写真をオクリンクで送信させておく。</li> <li>・オクリンクの提出BOX内で写真を比較させ、グループで意見を交流させる。</li> <li>・オクリンクの提出BOXで学級全員分の写真を見れるようにする。</li> </ul>
展開1	<p>2、午前 (A) と午後 (B) の写真を比較し、問題を設定する。</p> <p>T: 同じ所はどこですか。</p> <p>C: どちらも影があります。</p> <p>C: 撮影した日にちが同じです。</p> <p>T: 違うところはどこですか。</p> <p>C: 影が、Aの写真は、左の方に伸びていて、Bの写真は、右に伸びています。</p> <p>C: 撮影した時刻が違います。</p> <p>T: Aが9時で、Bが15時です。撮影した時刻が違うことで、違ってくることはありますか。</p> <p>C: 太陽の位置が違うはずです。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>問題</b></p> <p>影の向きは、太陽の位置で変わるのだろうか。</p> </div>	<p><b>★教材・課題把握</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・午前と午後の写真をテレビ画面に映して提示し、問題場面を焦点化する。</li> <li>・ちがいを見つけ、オクリンク上で書き込んだ写真A、Bを提出させる。</li> </ul> <p><b>★思考の整理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達が提出した写真を参考にさせる。</li> <li>○ワークシートを工夫し、自分で考えた問題と全体で整理した問題が書けるようにする。</li> <li>◎太陽と日陰の位置について、差異点や共通点を基に問題を見いだしている。(イー①)</li> <li>○問題を見いだせていない児童には、問題づくりのポイントや例を示す。</li> </ul>
展開2	<p>3、自分の考えを書いて、話し合う。</p> <p>T: 問題に対する自分の考えを書きましょう。</p> <p>C: 影は、太陽の位置と関係があると思います。なぜなら、いつも太陽と反対側に影ができるからです。</p> <p>T: 写真のように影が写っている時の太陽の位置は、分かかりますか。</p> <p>C: 遊具の影が写真の左に写っている時は、太陽は右の方にあると思います。</p>	<p><b>★協働・協議</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを伝え合うために、前時の「影遊び」の写真をオクリンクで共有しながら話し合い、考えを深める。</li> <li>○児童の発言や反応を促したり、相互指名させたりして、対話的な学習を進める。</li> <li>○実際に体を動かして影と太陽の位置を考えさせる。</li> </ul>
終末	<p>4、タイムラプスカメラで撮影した、午前から午後にかけての影の動画を見て、次時への見通しをもつ。</p> <p>T: 動画を見て、気付いたことはありますか。</p> <p>C: 影の動きは、太陽の動きに関係があると思います。</p>	<p><b>★学習の振り返り・見通し</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タイムラプスカメラで撮影した動画を見せて、次時への意欲付けをする。</li> </ul>

# 図画工作科学習指導案

## 研究主題

### 「ICTの活用を通して、 すすんで学び合える児童の育成」

日時 令和4年 11月2日(水)  
第5校時 14:00~14:45  
対象 第3学年2組 25名

1 題材名 「コマ撮りアニメーションをつくろう」

2 題材の目標

タブレットで、コマ撮りアニメーションの仕組みを使って、お互いの意見を取り入れながら、見る人が面白いと思える作品を協働的に制作する。

3 単元の評価規準

(ア) 知識・技能	(イ) 思考・判断・表現	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
①コマ撮りアニメーションの仕組みを使って、楽しい動きや変化を工夫して作っている。	①動き、奥行き、バランス等を基に、イメージをもちながら、素材の動かし方や表現方法を工夫している。 ②自分のイメージをもちながら、作品の造形的な面白さを感じたり共有したりし、自分の見方や考え方を深めている。	①友達の表現の工夫や良さを取り入れながら、主体的に作品づくりに取り組んでいる。 ②友達と協力することや主体的に作り出す喜びを味わいながら、学習活動に取り組もうとしている。

4 児童の実態と、ICT活用の具体的な手立て

(ア) 児童の実態

3学年の児童は、1年生のころからタブレットに日常的に触れ、基本的な操作はスムーズに行うことができる。タブレットで写真を撮影する際、機材の使い方のポイントを理解して、適切に使用することができ、資料の保存や共有フォルダの活用もできる。

図工の授業では、作ったり表現したりすることが好きな児童が多く、友達の良いところを見付けたり認めたりもできる。安心して表現できる学級の雰囲気があり、協働的な活動にも取り組むことができる。

(イ) ICT活用の工夫や意図

今回、ICTを授業で活用する際、ICTを使用するタイミングが最も重要だと考えた。


前題材では、木片に釘で手足をつけた人形“ぎこぎこくん”を各児童が作り、ぎこぎこくんが楽しく過ごすための場所も、木材や様々な材料の使い方を工夫して、時間をかけて制作した。それぞれの児童の中に、ぎこぎこくんを主人公としたストーリーイメージが展開され、ぎこぎこくに魂が吹き込まれて、動き出していると思われた。そこで、タブレットを使ったコマ撮りアニメーションの技法によって、本来動かないものを動かし、各児童が思い描いていたイメージを具現化しようと考えた。「表現したい」という思いを高めた状態で、それを叶えるツールに出会わせることで、児童の創作意欲を最大限に引き出すことができると考える。

本時では、コマ撮りアニメーションアプリ「koma koma」(日本文教出版)を活用する。簡単な操作で作成でき、1つ前の写真の残像が残るため、アングルや動きの緩急がつけやすく、3年生が使用するのに適していると考えた。

5 本時の展開（4／6）

(1) 本時のねらい 自分の表現したい動きが、よりイメージに近づくよう工夫したり、友達の作品から、動きの面白さを感じ取ったりしながら活動する。

(2) 本時の展開

時間	学習内容（学習活動） T：教師の発問 C：予想される児童の反応	指導の工夫 ★観点 ICTの活用・工夫 等 ○指導上の留意点 ◎評価基準（観点）
導入	<p>1 前時を振り返り、活動の見通しをもつ。</p> <p>T：前は、komakoma アプリを使って、ギコギコ君が動いている作品を作りましたね。</p> <p>C：「歩く」や「走る」の動きに挑戦したね。</p> <p>C：〇〇さんの作品が「走る」を上手に表現できていましたね。</p> <p>C：今日は新しい表現に挑戦したいです。</p>	<p>★教材・課題把握</p> <p>○前時の振り返りや前回出た課題点について、掲示や大型モニターで示す</p> <p>○ 事前に子供たちから表現したい動きや場面の希望を取り、段階的に選んで提示しておく。</p> <p>《例》</p> <p>お題① <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">歩く</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">走る</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">跳ぶ</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">瞬間移動</span></p> <p>お題② <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">びっくり</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">なかよし</span> …など</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>めあて様子や場面を表す2つのお題から一つを選び、おもしろい動きや伝わりやすい構図になるよう、工夫して表現する。</p> </div>
展開1	<p>2 制作活動をする。</p> <p>T：今日のお題は、「びっくり」と「なかよし」です。どちらに挑戦するか選んでください。</p> <p>C：わたしは「びっくり」に挑戦します。前回やった「瞬間移動」の動きが使えると思います。</p> <p>C：わたしは「なかよし」にします。2つの人形で「走る」を使えば、おいかっこをして遊んでいるように見えると思います。</p> <p>T：作品ができたら、エントリーシートを書いて黒板に貼ってください。作品は、提出フォルダに入れてください。</p> <p>C：エントリーシートには、工夫したところを書きます。</p>	<p>◎コマ撮りアニメーションの仕組みを使って、楽しい動きや変化を工夫して作ることができる。</p> <p>（ア－①）</p> <p>◎友達の表現の工夫や良さを取り入れながら、主体的に作品づくりに取り組んでいる。</p> <p>（ウ－①）</p> <p>○共有フォルダに見本画像を格納し、必要に応じて見ることができるようにしておく。</p> <p>○エントリーシートには、作品作りで工夫したところを書かせる。</p> <p>○操作上の機材トラブルをフォローする。</p> <p>○保存先やファイル名等については、事前指導しておく。</p>
展開2	<p>3 作品を全体で共有する。</p> <p>T：エントリーした人の作品をいくつか見てみましょう。作品の良いところを見つけて、良かったねカードを書いてください。</p> <p>C：びっくりしている様子がよくわかりました。</p>	<p>○掲示されたエントリーシートのコメントも合わせて紹介する。</p> <p>○良かったねカードは、作品を披露した児童に渡して、最後に回収する。</p>
終末	<p>4 今日の活動で良かったことや、頑張ったことなどを振り返り、次回への見通しをもつ。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>まとめ友達の作品から動きの面白さを感じたり、自分の表現したい動きを工夫して表したりできた。</p> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div>

研究主題

「ICTの活用を通して、  
すすんで学び合う児童の育成」

日時 令和4年 11月2日(水)  
第5校時 14:00~14:45  
対象 第4学年1組 25名

1 単元名 「中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう」(光村図書)  
教材「世界にほこる和紙」「百科事典での調べ方」「伝統工芸のよさを伝えよう」

2 単元の目標

- ・事典の使い方を理解して使うことができる。
- ・自分の考えとそれを支える理由や、事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。
- ・目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。

3 単元の評価規準

(ア) 知識・技能	(イ) 思考・判断・表現	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
① 事典の使い方を理解し使っている。	①「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や、事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。 ②「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。	①すすんで中心となる語や文を見つけて要約したり、自分の考えとそれを支える理由や、事例との関係の書き表し方を工夫したりしようと、学習の見通しをもって、調べて分かったことなどをまとめて書こうとしている。

4 児童の実態と、ICT活用の具体的な手立て

(ア) 児童の実態

何事にも意欲的に取り組むクラスである。毎日、日記を書いていることで、書くことへの抵抗はなくなってきた。また、感想や手紙のような自分の思いを書く活動では、全員がすぐに活動に取りかかることができる。しかし、論理的文章を書くことには難しさを感じている児童が多い。1学期に学習した「アップとルーズで伝える」では、実際にアップとルーズの写真を撮り、それまで使用していたワークシートに、対比する内容を記入させた後、文章を書いた。全員が迷わずに書くことができ、しくみがはっきりしていれば無理なく書けることを、教師も児童も実感できた。各教科での調べ学習も増え、大切な部分を見つけてまとめる力が必要となっているので、本単元では、要約する力を身に付け、文章にまとめる活動を行う。スモールステップで繰り返しながら要約の方法を身に付け、実践的な力を付けていきたい。

タブレット操作には多くの児童が慣れてきているが、文字入力の力には大きく差がある。タイピング練習や文字トーク等を行いながら、様々な使い方を積み重ね、文字入力の力を付けさせている。

(イ) ICT活用の工夫や意図

教科書に印を付けたり、サイドラインを引いたりする活動では、「自信がない」「間違えたくない」と、描かずに答えを待ってしまう児童も多い。しかし、タブレットの画面上ではすぐに修正が可能なので、「まず取り組んでみよう」という気持ちになっている。また、取り組む部分の教材だけを各自に送ることで、焦点を絞って取り組むことができる。さらに、なかなか取り組めない児童も、提出BOXに送られた友達の考えをみることで、良い意見を参考にして考えることができている。言葉の並べ替えが容易にできるため、本単元ではキーワードをもとに文章を組み立てる場面で使用し、思考の手助けとする。

5 本時の展開（4／16）

（1）本時のねらい

中心となる語や文を見付けて、要点をまとめることができる。

（2）本時の展開

時間	学習内容（学習活動） T：教師の発問 C：予想される児童の反応	指導の工夫 <b>★観点</b> ICTの活用・工夫 等 ○指導上の留意点 ◎評価規準（観点）
導入  おもしろそう	<p>1 「世界にほこる和紙」中①の部分を読み、内容をペアで伝え合う。</p> <p>T：「中①（3～6段落）」を簡単に友達に伝えましょう。</p> <p>C：短く話すのは難しいです。</p> <p>C：要点をまとめればいいと思います。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">めあて 段落ごとに要点をまとめよう。</div>	<p>○時間を指定して取り組ませ、要点をまとめることの重要性に気付かせる。</p>
展開1  やってみたい	<p>2 3段落の要点をまとめる。</p> <p>T：キーワードを見付けて、要点をまとめましょう。</p> <p>C：「やぶれにくい」と「長もち」は大切だと思います。</p> <p>3 4段落の要点をまとめる。</p> <p>T：キーワードを見付けて、要点をまとめましょう。</p> <p>C：「長いせんい」を選びました。</p> <p>C：文章にするのが難しいです。</p> <p>4 5段落の要点をまとめる。</p> <p>T：キーワードを見付けて、要点にまとめましょう。</p> <p>C：4段落と似ているから、わかりやすいです。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">まとめ 自分で要点をまとめられた！</div> <div style="text-align: center; margin: 5px auto;"><b>できた！</b></div> <p>5 6段落の要点を確認する。</p> <p>T：6段落には何が書かれていますか？</p> <p>C：和紙が長持ちするということが書かれています。</p>	<p>○キーワードを挙げさせて、全員で考えることでやり方を確認する。</p> <p>○カードを並べ替えることで、そのまま文章にできることに気付かせる。</p> <p><b>★思考の整理</b> オクリンクで4段落のワードをカードで送り、その中から選ぶ。</p> <p>○文章にする時には、主語・述語を意識させる。</p> <p><b>★思考の整理</b> オクリンクで5段落の文章を送り、見付けたキーワードに○をつける。</p> <p>◎中心となる語や文を見付けて要約している。 (イ-②)</p> <p>○中心文を見付けることで、要点を確認させる。</p>
展開2  もっとやりたい	<p>6 「中①」の要約をする。</p> <p>T：3～6段落をまとめると、どうなるでしょう。</p> <p>C：「和紙のよさ」について書かれていますと思います。</p> <p>C：2つのよさがありました。</p> <p>C：6段落は、「長持ち」のことについてなので、なくてもよいと思います。</p>	<p>○3～6段落の要点をまとめたものを黒板に示し、全員で確認する。</p> <p>○必要な段落となくともよい段落に分け、1つの文章にまとめさせる。</p>
終末	<p>7 これまでの要約部分（初め・中①・終わり）を振り返り、次時への見通しをもつ。</p>	

日時 令和4年 11月2日(水)  
 第5校時 14:00~14:45  
 対象 第4学年2組 25名

研究主題

「ICTの活用を通して、  
 すすんで学び合う児童の育成」

1 単元名 「This is my favorite place.」

2 単元の目標

- 世界と日本の学校生活の共通点や相違点を通して、多様な考え方があることに気付くとともに、教科名や教室名の言い方や道案内の仕方に慣れ親しむ。 【知識および技能】
- 自分が気に入っている校内の場所に案内したり、その場所について伝え合ったりする。 【思考力、判断力、表現力等】
- 相手に配慮しながら、自分が気に入っている場所について伝え合おうとする。 【学びに向かう力、人間性等】

3 単元の領域別目標

聞くこと	話すこと（やり取り）	話すこと（発表）
イ ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かるようにする。	ウ サポートを受けて、自分や相手のこと、身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、質問したり質問に答えたりするようにする。	イ 自分のことについて、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。

4 研究主題に関わる児童の実態と、ICT活用の具体的な手立て

(ア) 児童の実態

本学級は、男子13名、女子12名の計25名。学級の雰囲気は明るく元気で、思ったことを素直に表現する児童が多い。外国語活動の授業では、慣れている単語や簡単な表現は自信をもって発声しているが、難しい単語や表現になると、声が小さくなったり発声しなかったり、消極的になる様子が見られる。しかし、歌やミニゲームなどは大好きで、楽しみながら活動を行う中で、自然に英語を覚えることができている。

そこで、本単元では、本時のねらいを厳選して反復練習したり、交流したくなるような工夫を考えて、自信をもって表現したり聞いたりできる児童に育てていきたい。

(イ) ICT活用の具体的な手立て

外国語活動では、国際感覚の基盤を培うことや、日本語と外国語との音声の違い等に気付くことが重視されているので、授業にICTを取り入れて工夫している。

一つは、オクリンクでALTの音声を取り入れたカードや本時で扱う文のカードを送り、反復練習することである。タブレットで個人練習することで、日本語と外国語の音声の違いが分かりやすくなり、反復練習を通して、その後の授業で自信をもって発言できるようになると考える。

もう一つは、Teamsを使って、遠隔地にいるゲストティーチャー（以下、GT）とチームティーチングで授業を行い、教師とGTのデモンストレーションを児童に提示したり、授業で学習したことを生かして、児童がGTと会話したりすることで、外国語のコミュニケーション意欲が高められると考える。



5 本時の展開 (3/4)

(1) 本時のねらい

教科名や教室名の言い方、道案内の仕方を理解し、自分の気に入っている校内の場所を伝えることができる。

(2) 本時の展開

時間	学習内容 (学習活動) T: 教師の発問 C: 予想される児童の反応	指導の工夫 <b>★観点</b> ICTの活用・工夫等 ○指導上の留意点 ◎評価規準 (観点)
導入	1 挨拶をする。(Greeting) 2 好きなフルーツを紹介する。(Small Talk) T: 好きな果物を伝える時、何と云えばいいでしょう。 C: I like ~. で伝えられます。	○オンラインでGTと中継し、チームティーチングで授業を進行する。 ○既習内容についてペアで会話ができるようにする。
展開1	3 本時のめあてを確認する。 <b>めあて</b> お気に入りの場所を案内しよう。 4 発音練習をする。(Word Chant) ・オクリンクを開き、教科名や教室名、道案内に関する単語の発音練習をする。 5 自分が気に入っている校内の場所へ道案内しよう。(Activity) ( 理科室、図工室、職員室、校長室、校庭、音楽室 コンピューター室、保健室 ) A: Hello. B Hello. A: Turn left. Go straight. Turn right. Stop! B: Library? A: Yes! <b>My favorite place is library.</b> How about you? (やり取りを交代する) ・オクリンクで、自分の話したい文を組み立てて練習する。 ・友達2人以上に声をかけて会話する。	○“like”と“favorite”について、使い方を知らせておく。 <b>★教材・課題把握</b> オクリンクにある音声付きのカードで反復練習ができるようにする。 <b>★思考の整理</b> オクリンク上で会話文を組み立て、音声を聞きながら練習し、自信をもってコミュニケーションができるようにする。 ◎相手に配慮しながら、自分が気に入っている校内の場所に案内したり、その場所について伝え合ったりしている。(話すこと イ)
展開2	6 GTを道案内する。 ・Teamsの画面上で会話し、玄関にいるGTを4年2組教室まで案内する。 <b>まとめ</b> 習った単語を使って、案内ができた	○OGTの居場所(玄関)が、ビデオ中継で分かるようにする。 <b>できた!</b>
終末	7 本時の活動を振り返り、カードに記入する。 ・次回以降の見通しをもつ。 8 挨拶をする。(Greeting)	○次回、気に入っている場所でどんなことが好きかを伝えることを知らせる。

## 研究主題

「ICTの活用を通して、  
すすんで学び合う児童の育成」

日時 令和4年 11月2日(水)

第5校時 14:00~14:45

対象 第5学年1組 27名

1 単元名 「比べ方を考えよう(1)」(東京書籍)

## 2 単元の目標

異種の2量の割合としてとらえられる数量について、速さなど単位量当たりの大きさの意味及び表し方について理解し、単位量当たりの大きさをを用いた比べ方や表し方について図や式を用いて考える力を養うとともに、単位量当たりの大きさの意味や表し方を、数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、多面的に粘り強く考えたり、今後の生活や学習に活用しようとしたりする態度を養う。

## 3 単元の評価規準

(ア) 知識・技能	(イ) 思考・判断・表現	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
異種の二量の割合としてとらえられる数量について、速さなど単位量当たりの大きさの意味及び表し方について理解し、単位量当たりの大きさを求めたり、比べたりしている。	異種の二量の割合としてとらえられる数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を図や式などを用いて考え表現している。	速さや単位量当たりの大きさの意味及び表し方などを、図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。

## 4 児童の実態と、ICT活用の具体的な手立て

## (ア) 児童の実態

本学級の児童に算数に関するアンケートを取った結果、算数が苦手と感じる児童の割合が34%であった。四則計算の仕方はおおよその児童が理解しているが、既習事項と関連させて考えたり、図を使って説明したりすることに苦手意識があるからだと考える。

そこで、問いを見いだすときには、既習事項を想起することや、考えの根拠を説明するために、図や表、グラフなどに整理していくことを心がけるように指導し、苦手意識の改善に取り組んでいる。

## (イ) ICT活用の具体的な手立て

本単元に関する既習事項は、1学期に学習した「比例」と、前単元で学習した「平均」の考えとなる。今回の提案として、学級閉鎖など教室での一斉授業ができなかった場合を想定して、teams(オンライン)で授業を行う。図書室と教室の「こみぐあい」の場面を算数の問題としたため、教科書における問題設定とは異なる展開とした。具体的には、面積と人数の関係に着目し、どちらかをそろえればよいことに気付かせる。ノートに記載した自分の考えを、オクリンクの提出BOXに送る。その際、集団検討までに児童全員が閲覧できるようにしておき、自分の考えをもつことが難しい児童への手立てとする。

5 本時の展開 (1/10)

(1) 本時のねらい

混み具合の比べ方を、面積と匹数の関係に着目して図や式を用いて考え、説明しようとしている。

(2) 本時の展開

時間	学習内容 (学習活動) T: 教師の発問 C: 予想される児童の反応	指導の工夫 <b>★観点</b> ICTの活用・工夫 ○指導上の留意点 ◎評価規準 (観点)
導入	1 本時の問いをもつ。	<b>★教材把握</b>
おもしろそう	<div data-bbox="240 488 871 555" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">図書室と教室のこみぐあいを調べましょう。</div> <p>T: どのようにしたら比べられますか。 C: どちらかを揃えたら比べられます。 C: 図書室の人数はわかりますが、教室は何人いますか。 T: 20人です。 C: 面積がわかりません。自分たちで測りますか。 T: 今回は先生が調べています。オクリンクに送ります。 C: 数が大きくて難しそう。簡単な数にしたい。 T: では、場面絵を見せますので、こみぐあいについてイメージをはっきりさせましょう。</p> <div data-bbox="240 1003 871 1081" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">めあて こみぐあいの比べ方を考えよう</div>	<p>リモート (teams) でつなぐ。現在の状況を、算数の問題場面として把握させる。</p> <p><b>★課題把握</b> 場面絵を見せ、どのような問題になるかを予想させる。</p>
	2 見通しをもつ。 T: どうしたら解決できそうですか。 C: 面積の最小公倍数で比べます。 C: 1㎡当たりのうさぎの数で比べます。 C: 1匹当たりの面積で比べます。	○クラス算数のため、全員が同じスタート地点に立てるように、見通しをもたせる。
展開	3 自力解決する。	
考えたい・伝えたい	<p>T: 自分の考えが書けたら、提出BOXに送みましょう。 4 解決したことを共有する。 C: 3つの考え方がありました。 C: 自分と友達の考えは何が違うか見付けました。 T: それぞれの考え方について、気付いたことはありますか。 C: 最小公倍数は、かけ算になるからいつでも使えそうです。 C: 1より小さいと、どちらが混んでいるか分かりづらい。 C: 割りきれないときがあると、わからなくなりそうです。 T: 最小公倍数の考えは、みんなにとってはわかりやすいようですね。では、今日の学習を振り返ってまとめましょう。</p>	<p><b>★協働・協議</b> シートに書いた数直線図、式、答えなどから自分の考えと比べたり、付け加えたりさせる。</p> <p>◎混み具合の比べ方を、面積と匹数の関係に着目して考え、説明しようとしている。(イー①)</p>
	5 まとめる。	<div data-bbox="256 1955 1031 2033" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">まとめ 比べるときは、どちらかを揃えとできる。</div> <div data-bbox="957 1892 1173 1982" style="border: 2px dashed black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block; text-align: center;"> <b>できた!</b> </div>
終末		

研究主題

「ICTの活用を通して、  
すすんで学び合う児童の育成」

日時 令和4年 11月2日(水)  
第5校時 14:00~14:45  
対象 第5学年2組 27名

1 単元名 「プログラミングでドローンを飛ばそう」

2 単元の目標

ブロック型プログラミング言語で、飛行操作をパズルのように組み合わせ、試行錯誤を繰り返しながら、ドローンの動きを意図したものに近づけていくことにより、プログラミング的思考を養う。

3 単元の評価規準

(ア) 知識・技能	(イ) 思考・判断・表現	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
①プログラムの仕組みや構成を知ることができる。 ②目的に応じて、機能ごとのプログラムを適切に組み合わせることができる。	①目的に応じて機能を組み合わせ、適切に並べられているか、検証しようとしている。 ②友達の活動から得た情報や方法などを、自分の活動に活かしている。 ③多面的、多角的に考えをもとうとしている。	①プログラミングに興味をもち、対象との関わり方を楽しみながら、自分なりの方法で問題を解決しようとしている。 ②グループで試行錯誤しながら一緒に考え、プログラムをより良いものに改良しようとしている。

4 研究主題に関わる児童の実態と、ICT活用の具体的な手立て

(ア) 児童の実態

本学級の児童は、4年生の時からプログラミング学習に取り組んでいる。4年生では、Viscuitを使った学習を体験しており、楽しみながらプログラミング的思考を身に付けてきた。Viscuitを使った作品づくりを通して、自分の思いや考えを伝えることはできるが、友達の作品から考えを深めたり、見方を広げたりすることは苦手な児童が多い。

そこで、児童が興味をもって積極的にプログラミング学習に取り組めるよう、Tello EDUを使用する。話し合いが活発になるように、3~4人のグループでプログラムを組み合わせながら、グループ内の友達との考え方の違いや良さを認め合い、足りない部分をグループ全員で考えられるように指導に当たる。

(イ) ICT活用の工夫や意図

本時では、Ryze Tech社のTello EDUを使用する。Tello EDUは、タブレット画面の中だけで行うビジュアルプログラミングではなく、実際にドローンを飛ばすことができるため、適切なプログラムがどこまで組んでいるか確認しやすい。示されたミッションに対して、ドローンを飛ばす順序やコースを話し合い、課題を解決していくことができる。

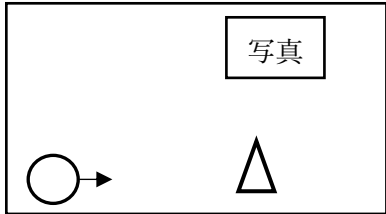
グループ学習の話し合いを通して、一つの課題を解決するために、自分の意見を言うだけでなく友達の意見も聞いて協力し、より適切なプログラムや独創性のあるプログラムを組むことができるよう指導していく。

## 5 本時の展開

### (1) 本時のねらい

ドローンの動きを順序立てて考え、フラフープをくぐって写真を撮影し、元の場所に戻ってくる動きをさせるために、どのようなプログラムを組めばよいか考えることができる。

### (2) 本時の展開

時間	学習内容（学習活動） T：教師の発問 C：予想される児童の反応	指導の工夫 ★観点 ICTの活用・工夫 等 ○指導上の留意点 ◎評価規準（観点）
導入	<p>1 課題を把握する。</p> <p>T：今日はどんな課題でしょうか。</p> <p>C：「コーンをまわって写真を撮って戻ってくる」ことです。</p> <p>T：使うブロックは何でしょうか。</p> <p>C：前後左右に移動させるブロックと、向きを変えるブロックと、写真を撮るブロックだと思います。</p>	<p>○前田クローバーの写真を見せて、課題を予想させる。</p> <p>★課題把握 モーション一覧をテレビ画面に表示し、写真撮影のブロックを使ったプログラムを組むことを予想させる。</p>
おもしろそう	<p>めあて 写真を撮るモーションブロックを使って、今日のミッションをクリアしよう。</p>	<p>写真</p> 
展開1	<p>2 自力解決する。</p> <p>T：プログラムを組んで、ドローンを飛ばしてみよう。</p> <p>C：（プログラミング例） 離陸→前250cm→反時計回りに90° →前50cm→写真を撮る→後50cm →左250cm→着陸</p> <p>3 解決方法を検討する。</p> <p>T：どこまでうまくいきましたか。どこがうまくいきませんでしたか。</p>	<p>○プログラムがどこまでうまくいっているか、どこからうまくいかなかったかを考えさせて、改善の見通しをもたせる。</p>
展開2	<p>4 検討したことを共有する。</p> <p>C：コーンを回れませんでした。</p> <p>C：写真の前まで行けたけど、向きがありませんでした。</p> <p>C：写真は撮れたけど、戻ってくる場所がずれてしまいました。</p> <p>5 試行錯誤を繰り返す。</p> <p>T：改良プログラムを組んで、うまくいくように調整しましょう。</p>	<p>★協働・協議 グループごとにうまくいったところや問題点を発表したり、友達の意見を聞いたりして、原因を考えて、不具合を解消させる。</p> <p>○プログラムの順番が合っているときは、数値を調整させる。</p> <p>◎友達の活動から得た情報や方法などを、自分の活動に活かしている。（イー②）</p>
終末	<p>まとめ いろいろなモーションブロックを自分たちで組み立てて、ミッションが達成できた。</p>	<p>◎目的に応じて、機能ごとのプログラムを適切に組み合わせることができる。（ア②）</p>

## 研究主題

「ICTの活用を通して、  
すすんで学び合う児童の育成」

日時 令和4年 11月2日(水)  
第5校時 14:00~14:45  
対象 第6学年1組 30名

1 単元名 「比例の関係をくわしく調べよう」(東京書籍)

## 2 単元の目標

比例や反比例の関係について理解し、伴って変わる2つの数量やそれらの関係に着目し、表や式、グラフを用いて変化や対応の特徴を見いだして2つの数量の関係を考察する力を養うとともに、比例や反比例の関係を数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、多面的に粘り強く考えたり、今後の生活や学習に活用しようとしたりする態度を養う。

## 3 単元の評価規準

(ア) 知識・技能	(イ) 思考・判断・表現	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
比例や反比例の意味や性質、表やグラフの特徴について理解し、比例や反比例の関係にある2つの数量の関係を表や式、グラフに表したり、比例の関係をj用いて問題解決したりすることができる。	伴って変わる2つの数量を見だし、それらの関係に着目し、目的に応じて表や式、グラフを用いて、それらの関係を表現して変化や対応の特徴を見いだして、問題解決に活用している。	数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討して、よりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき、学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。

## 4 児童の実態と、ICT活用の具体的な手立て

## (ア) 児童の実態

本学級では、教師が授業におけるファシリテーターとして、児童の思考や表現を促す役割となることで、対話的に学び合う姿が多く見られるようになってきた。算数では、児童の習熟度に大きな差が見られるが、互いに数学的な見方・考え方を働かせながら、学びを深められることを重点に指導に当たってきたことで、苦手意識がある児童も、すすんで学習に向かう態度が感じられるようになってきた。

タブレットの操作には多くの児童が慣れてきているので、授業での活用を通して、さらに「すすんで学び合う児童の育成」に迫れるよう指導に当たる。

## (イ) ICT活用の具体的な手立て


本時では、ミライシードのオクリンクを使って、解決への見通しや比較検討の際に有効な手立てとなるよう活用していく。オクリンクでは、個人の考えを瞬時に共有したり、拡大提示したりすることができる。自力解決の場面では、悩んでいる児童が他の児童をヒントに発想したり、比較して考えを深めたりする際に、有効な手立てと考えた。また、集団検討場面では、表現したものを拡大提示しながら相手に伝えたり、他の考えと比較したりするためのツールとして活用していく。そのため、オクリンクのシートには、考えたこと全てを書き込むのではなく、式や図や表のいずれかを書き込むことで、児童が自分の言葉で伝えたり、そこから読み取ったりできるよう指導していく。

5 本時の展開 (8/15)

(1) 本時のねらい

比例の関係を活用した問題解決の方法を考え、表や式を用いて説明することができる。

(2) 本時の展開

時間	学習内容 (学習活動) T: 教師の発問 C: 予想される児童の反応	指導の工夫 <b>★観点</b> ICTの活用・工夫 等 ○指導上の留意点 ◎評価規準 (観点)														
導入	<p>1 問題を読み、題意を捉える。</p> <p>T: ここにある紙は、全部で何枚あるでしょう。</p> <p>C: 1枚ずつ数えるのは大変ですね。</p> <p>C: 10枚のときの厚さで考えられると思います。</p> <p>C: 10枚のときの重さでも考えられそうです。</p> <p>C: 比例の考え方をすれば、およその数が求められそうです。</p> <p>C: 表や数直線図でも考え方が紹介できそうです。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>めあて</b> どうしたら全部数えなくても求められるだろう。</p> </div>	<p>○日常生活と関連付けた場面設定にして、「数える作業より簡単な方法がないか」と動機付け、学習への関心を高めさせる。</p> <p>○これまで学習した方法や考え方を想起させ、解決への見通しを立てさせる。</p> <p>◎伴って変わる2つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、表や式をもちいてそれらの関係を表現して、変化や対応の特徴を見いだして問題解決に活用している。(イ)</p>														
展開1	<p>2 自力解決をする。(以下、参考)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: left;"> <p>重さは枚数に比例すると考えて、比例の性質を使った。</p> <table border="1" style="margin: 5px auto;"> <tr> <td>枚数 <math>x</math>(枚)</td> <td>10</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>重さ <math>y</math>(g)</td> <td>92</td> <td>□</td> </tr> </table> <p><math>300 \div 10 = 30</math> <math>92 \times 30 = \square</math></p> </div> <div style="text-align: left;"> <p>重さは枚数に比例すると考えて、決まった数を求める。</p> <table border="1" style="margin: 5px auto;"> <tr> <td>枚数 <math>x</math>(枚)</td> <td>10</td> <td>□</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>重さ <math>y</math>(g)</td> <td>92</td> <td>□</td> <td>□</td> </tr> </table> <p><math>10 \times \square = 92</math> <math>\square = 92 \div 10</math> <math>= 9.2</math> (決まった数) <math>300 \times 9.2 = 2760</math></p> </div> </div> <p>3 比較・検討をする。</p> <p>C: どの方法も比例の考え方が使われていました。</p> <p>C: 比例なので、倍の考え方にもつながります。</p> <p>C: 全部数えるよりも、1あたりの数を決めたら、簡単に求めることができました。</p> <p>4 本時の学習をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>まとめ</b> 全部数えなくても、比例の考え方を生かせば、およその枚数を求めることができる。</p> </div>	枚数 $x$ (枚)	10	300	重さ $y$ (g)	92	□	枚数 $x$ (枚)	10	□	300	重さ $y$ (g)	92	□	□	<p>○表や式、図などを用いた多様な見方・考え方を評価し、比較検討場面への意欲をもたせる。</p> <p>○測り方によっては、多少の誤差が生じることを留意させる。</p> <p><b>★思考の整理</b> 他の考えを参考にしながら、オクリンクのシートに、表や式、図のいずれかを書き込み、思考を整理させる。</p> <p><b>★協働・協議</b> シートに書いた表や式、図などから、自分の考えと比べたり、新しい見方・考え方につなげたりさせる。</p> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div>
枚数 $x$ (枚)	10	300														
重さ $y$ (g)	92	□														
枚数 $x$ (枚)	10	□	300													
重さ $y$ (g)	92	□	□													
展開2	<p>5 適用問題を解く。</p> <p>T: もっと多い数の紙を、全部数えないで求めてみましょう。</p> <p>C: どんな枚数でも、比例すると考えれば、簡単に求められそうです。</p>	<p>○児童に紙の枚数を設定させるなど、意欲的に問題解決できるようにする。</p>														
終末	<p>6 本時を振り返る</p> <p>C: 色々な見方や考え方がありました。</p> <p>C: Aさんの表現や、Bさんの考え方が素敵でした。</p>	<p>○本時で新しい見方や考え方のきっかけとなった場面を振り返り、児童らが互いの良さを認め合えるように促す。</p>														

研究主題

「ICTの活用を通して、  
すすんで学び合う児童の育成」

日時 令和4年 11月2日(水)  
第5校時 14:00~14:45  
対象 第6学年2組 29名

1 単元名 「江戸幕府と政治の安定」(東京書籍)

2 単元の目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子や人物の働き、代表的な文化遺産などに着目して、文化財や地図、年表などの資料で調べ、江戸幕府の政策の意図や社会の様子を考え、表現することを通して、江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制を手掛かりに、武士による政治が安定したことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする態度を養う。

3 単元の評価規準

(ア) 知識・技能	(イ) 思考・判断・表現	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
①世の中の様子や人物の働き、代表的な文化遺産などについて、文化財や地図、年表などの資料で調べ、江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制を理解している。 ② 調べたことを年表や文などにまとめ、武士による政治が安定したことを理解している。	①世の中の様子や人物の働き、代表的な文化遺産などに着目して、問いを見だし、江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制について考え、表現している。 ②江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制を関連付けたりして、江戸幕府の政策の意図や社会の様子を考え、適切に表現している。	①江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習を追究し、解決しようとしている。

4 児童の実態と、ICT活用の具体的な手立て

(ア) 児童の実態

本学級の児童への社会科に関するアンケートでは、「歴史の学習が好き」と答えた児童の割合が、91%だった。休み時間や図書の日にも、歴史に関する本を読む児童が多く、興味関心が高いと感じている。一方で、必要な情報を選択したり、資料をもとに考えを広げたり深めたりすることが難しい児童も多い。

そこで、既習事項を自分の考えの根拠にできるように、教師がファシリテーターとして、児童の思考や表現を促す役割を果たせるように指導に当たる。そして、学習内容を理解するだけでなく、資料から当時の時代背景や人々の思いにも着目させて、学びが深められるようにしていく。

(イ) ICT活用の具体的な手立て

導入では、学習内容の振り返りや見直しをもたせるために、パワーポイントを活用して理解が深められるようにする。また、ミライシード「オクリンク」を使って、児童が調べたことをグループの友達に瞬時に送ったり、それぞれの考えをまとめたりしていく。社会科では、「様々な資料や調査活動を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにすること」が目標となっていることから、授業の中でICTを取り入れ、多くの児童が社会科の目標に迫りながら、すすんで学び合う態度を養えるよう指導にあたっていく。



5 本時の展開 (6/6)

(1) 本時のねらい

江戸幕府について調べてきたことを整理し、政治を安定させる取り組みについて考える。

(2) 本時の展開

時間	学習内容 (学習活動) T: 教師の発問 C: 予想される児童の反応	指導の工夫 <b>★観点</b> ICTの活用・工夫 等 ○指導上の留意点 ◎評価規準 (観点)
導入  考えたい	1 前時までの復習と課題把握をする。 T: 前時までの学習で、気付いたことや考えたことは何ですか。 C: 参勤交代や大名の配置を工夫していました。 C: 江戸幕府は、様々な取り組みを行っていました。	<b>★学習の振り返りや見通し</b> 前時までの指導で使ったパワーポイントを提示して、流れを確認する。
展開1  伝えたい	2 自分の考えをまとめる T: 江戸幕府の取組の中で、政治を安定させるために一番影響が大きかったものはどれでしょう。 C: 大名を取り締まったことが、将軍の力をより強くしたと思います。 C: 身分制度があったから、争いがなかったのだと思います。 C: 鎖国をしたことで、利益や情報を幕府が独占して、支配しやすくしたと思います。 C: 一国一城令があったから、力をつける大名がいなくなり、争いがなかったのだと思います。	<b>★思考の整理</b> 資料を参考にしながら、オクリンクのシートに自分の考えを書き込み、思考を整理させる。 ○幕府の取組ごとにシートの色を変えることで、提出ボックスに提出された時に、人数が分かりやすいようにする。
展開2  話し合いたい	3 協議・検討する C: 身分制度があったから、権力を維持できなかったのではないかと思います。 C: 身分制度も大切だと思うけど、大名の取り締まりがあったから、安定していたのではないかな。 C: さまざまな政策があったから、政治が安定していたと感じました。 C: 友達の意見を聞いて、一つだけではなく様々な取り組みが必要だったんだと思いました。	<b>★協働・協議</b> シートに書いたキーワードを基に、自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いて新しい見方・考え方につなげたりできるようにする。  ◎江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制について、予想を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習を追求し、解決しようとしている。(ウー①)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>まとめ</b>                      全ての政策がつながり合って、政治を安定させていった！                 </div>		